

リハビリテーション科におけるSDHの取り組みについて

～SDHの取り組みの変遷と成果,今後の展望について～

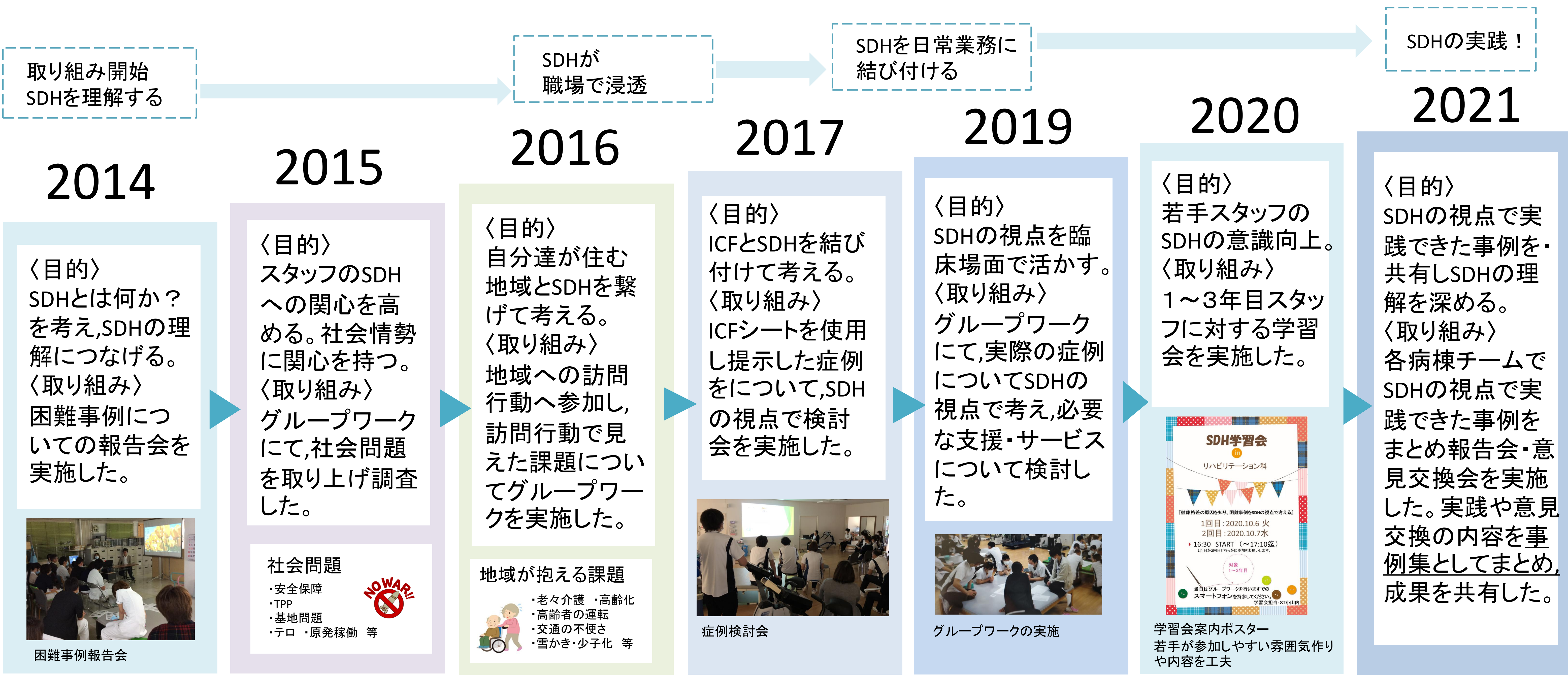


津軽保健生活協同組合 健生病院 リハビリテーション科 ○小山内奈津美 二本柳美里 小野恵裕 一戸広大

I. 背景・目的

当院リハビリテーション科では,2014年よりセラピストのSDH教育に取り組んでいる。これまでの取り組みにより,スタッフのSDHへの関心や意識は向上し,日常業務においてSDHの視点を活かした支援が実践されている。そこで,リハビリテーション科におけるこれまでのSDHの取り組みの変遷と成果,今後の展望について報告する。

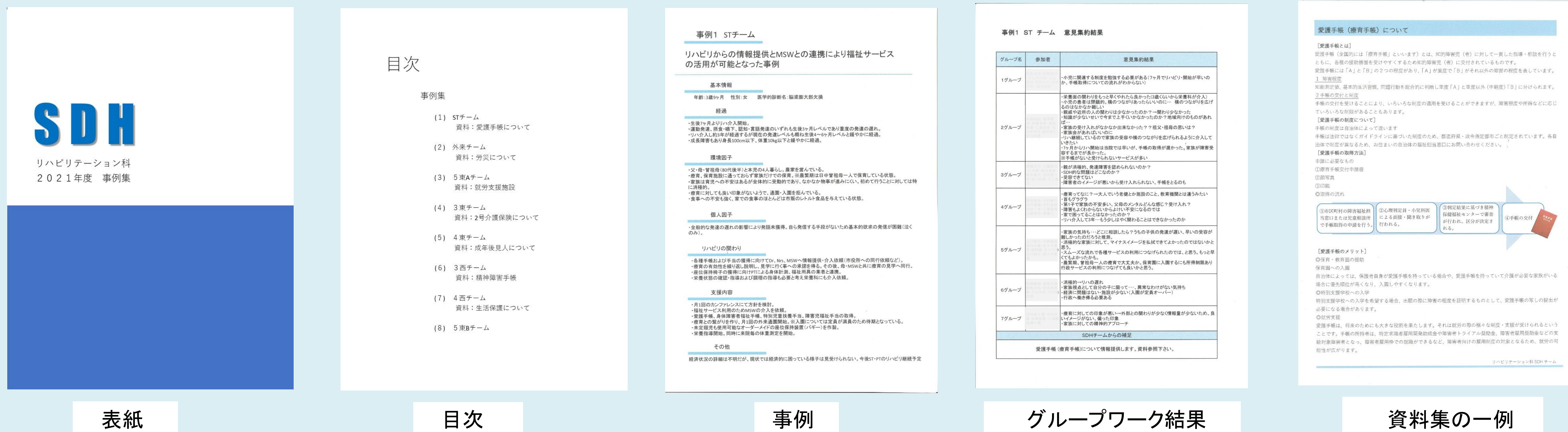
II. SDHの取り組み



III. 取り組みの成果

2021年度,スタッフ全員にアンケート調査を行った。調査結果では,「SDHについて理解できた」「SDHは臨床場面で活かす事ができる」と答えたスタッフは**全体の9割以上**であった。取り組み後スタッフのSDHへの関心や意識は向上し,SDHの視点を活かした支援が,日常業務の中で積極的に実践された。実践の成果は,「リハビリテーション科SDH事例集」にまとめ共有した。

リハビリテーション科SDH事例集



V. まとめ

SDHへの継続的な取り組みは,スタッフのSDHへの関心や意識を高め,日常業務での実践に繋がった。医療者へのSDH教育の意義については, 武田¹⁾や堀²⁾によって報告されているが,セラピストへの職場教育としての導入の有用性についての報告はほとんどない。セラピストに対してもSDH教育は有用と考える。

健康増進や介護予防を担うセラピストにおいては,職場内での実践を地域活動に結びつけていく事が重要と考える。今後,地域活動においての実践に繋がっていきけるよう,職場内で継続的に取り組んでいく必要がある。

日本HPHネットワーク 利益相反(COI)の開示

筆頭演者名: 小山内奈津美
共同演者名: 二本柳美里,小野恵裕,一戸広大

筆頭演者ならびに共同演者に開示すべきCOIはありません。

参考・引用文献

- 1) 武田 裕子: 格差時代に医学教育で取り組む「SDH (Social Determinants of Health)」とは?。医学教育, 50(5):415～420, 2019
- 2) 堀 樹樹: SDH 教育—三重大学医学部医学科の状況—。医学教育, 50(5): 429～434, 2019